

主税局

丈量方法及地圖ノ沿革 (昭和二年二月)

大藏省

地籍編製及地租改正ノ沿革

大正十一年地籍調査ノ沿革（昭和十一年）

地籍編製

目次

丈量方法ノ沿革

一 地租改正ノ際ノ丈量方法

二 明治十八年地押調査ノ際ノ丈量方法

三 地租條例布告當時ノ丈量方法

四 其ノ後ノ丈量方法

五 各種丈量方法ノ概略

地圖ノ沿革

一 改租繪圖

二 地押圖

参照

地籍編製雜形及心得書

大藏省

此等ノ事ハ
本館

一 地租改正當時ノ際、丈量方法
二 地租改正當時ノ際、丈量方法
三 地租改正當時ノ際、丈量方法
四 地租改正當時ノ際、丈量方法
五 地租改正當時ノ際、丈量方法
六 地租改正當時ノ際、丈量方法
七 地租改正當時ノ際、丈量方法
八 地租改正當時ノ際、丈量方法
九 地租改正當時ノ際、丈量方法
十 地租改正當時ノ際、丈量方法

丈量方法ノ沿革

一 地租改正當時ノ際、丈量方法

字ヲ定メ地番ヲ付セシ上土地ノ丈量ニ着手セリ丈量ハ十字法又ハ三斜法ヲ以テ其ノ歩積ヲ量リ畝杭ヲ建テ字番號地目反別地主姓名等渾テ之ヲ明記シ又其ノ番號地順ニ隨ヒ一筆毎ノ形狀ヲ見取圖ニ製シ之ヲ聯合シテ一字限り及一村限圖ヲ製シ地引帳ト共ニ之ヲ管轄廳ニ上進セシム而後官吏其ノ本村ニ臨ミ地主ハ勿論本村總代人等ヲ會集シ其ノ畝杭ト其ノ地引帳地引繪圖トヲ照合シ地番ノ重複或ハ脱漏ナキヲ確認スルニ至ルヲ度トセリ而シテ此際地味ノ厚薄ヲ始メ改租ニ付要用ナル諸件ヲ熟察シ以テ他日地價調査等ノ憶按ニ供セリ地押既ニ了リ次ニ丈量検査ニ着手ス此ノ際ニ於テモ地主總代人等ヲ會集スルコト總テ地押ノ時ニ異ナラス而シテ官吏

大藏省

ハ風量學ニ由リ又ハ國至ノ舉證イ自稱イモ實ニ其ノ終果ヲ五々其ノ處所
田々乎此類ニ歸リ必長ク思ヤ其類跡ヲ悉クたり又其ノ深山幽谷ニ至リテ
入テリ進ハ人跡ヲ拂フテ入リ出ル賊平陸ハ十字路氣三條ノ滑マ誠スニ
山林險阻ノ支邊ハ大機轉ヲ成イ異セヨサシ顔面ハ翻轉遊弋星ニ趨ムナ
處處ハ一箇洞窟ニ大具ト二三層以テ至五六層ナリ

($\rightarrow$)

第二章 土地丈量

第一條 土地ノ丈量ニ用ユル間竿ハ通常六尺一步ヲ以テ法人トナスヘシ
若シ不得止事情有之分ハ暫ク舊慣ノ間竿ヲ用イ丈量シ追テ改正濟ノ上
ハ六尺一步竿ニ改正スヘシ

第二條 六尺一步竿ヲ用ユルモノ間以下ノ尺度ハ三寸ヨリ五尺七寸マテ
三寸ヲ倍ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルハ都テ之ヲ捨ツヘシ即チ四寸若ハ
五寸ヲ得ルトキハ一二寸ヲ捨三寸此間詰メ五勾トシ五尺九寸ヲ得ルト
キハ二寸ヲ捨五尺七寸此間詰九合五勾トナスカ如シ（間以下ハ何合何
勾ト稱シ勾位ニ止ム）互乘シテ得ル處ノ積ハ算出ノ儘三除（一反三百
坪）シテ反別ヲ得一步未滿ノ數ハ切捨ヘシ（但シ従前ノ例ニヨリ三步

一、凡そ測量ノ事ハ一先未滿ノ地ハ假令ヘシ（即チ測量ノ時ニモ三邊
 四邊ノ地ニ出ム）五邊ノ地ヲ測量シテ其ノ地ノ長短ハ其ノ地ノ長短ニ
 準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ其
 正丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 三丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 四丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 五丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 六丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 七丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 八丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 九丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ
 十丈ニ準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ

(一)

測量ノ事ハ一先未滿ノ地ハ假令ヘシ（即チ測量ノ時ニモ三邊
 四邊ノ地ニ出ム）五邊ノ地ヲ測量シテ其ノ地ノ長短ハ其ノ地ノ長短ニ
 準テハ二丈ニ前正只十丈其間測量合正只十丈ニ其地ノ長短ハ其

(二)

未滿刻拾アルモノハ本條ノ通り更正スヘシ（但シ間竿六尺三寸或ハ六
 尺五寸ヲ用ユル時ハ其ノ尺度ニ因リ本條ニ準シテ算出スヘシ）
 第三條 耕地ヲ丈量スルハ畦際ヨリ打詰ト心得ヘシ
 第四條 數個ノ畦畔ヲ跨リ一筆ト爲ス地ハ總積ノ内ヨリ畦數ノ歩合ヲ除
 去シテ反別ヲ定ムヘシ
 第五條 山林原野池沼等ノ廣漠タル地ニシテ實測ナリカタキモノハ四至
 ノ境界ヲ明白ニ記註セシメ凡ソ反別ヲ記載スヘシ
 市街地租改正調査法細目（明治八年三月地租改正事務令）
 第一條 土地丈量ノ事
 第一節 市街ノ丈量ハ最嚴密ヲ要ス舊測券稅發行ノ際勿率ニ丈量ヲナ
 シ或ハ舊來帳簿上ニ記載ノ坪數等ニ據リ書出セシモノハ此ノ際悉皆

(二)

一、市街地内ニ籠リ宅地ト別區域ヲナセル田畑林等ハ郡村耕地ニ準シテ丈量スヘキモノトス

二、市街地外五箇至七箇目(即ち八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)

三、山林畠地等ノ測量ハ其ノ地ノ形状ニ依テ初メニ該町ノ表通り裏通りノ四方ヲ綿密ニ丈量シテ總坪數ヲ算定シ然ル後一宅地毎ニ丈量ヲナシ其ノ坪數ヲ通計シ初メニ算出セシ總坪數ニ照シ差違ナキヲ要スヘキモノトス

四、市街地内ニ籠リ宅地ト別區域ヲナセル田畑林等ハ郡村耕地ニ準シテ丈量スヘキモノトス

五、市街地外五箇至七箇目(即ち八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)

調査スヘキモノトス

第二節 丈量ニ臨ミ家屋楠比ノ地ニシテ一宅地ノ表裏奥行等屈曲アルモノハ實測現歩數ヲ得ル事甚タ難シ依テ初メニ該町ノ表通り裏通り横町ノ四方ヲ綿密ニ丈量シテ總坪數ヲ算定シ然ル後一宅地毎ニ丈量ヲナシ其ノ坪數ヲ通計シ初メニ算出セシ總坪數ニ照シ差違ナキヲ要スヘキモノトス

第三節 宅地一區域内ニ籠ル田畑ハ區別ニ及ハス宅地ヲ以テ丈量スヘキモノトス

第四節 市街地内ニ籠リ宅地ト別區域ヲナセル田畑林等ハ郡村耕地ニ準シテ丈量スヘキモノトス

第五節 様シ歩ハ實況ニ應シ一町内三四箇所ヨリ十箇所位迄適宜之ヲ

山林原野調査法細目(明治三十二年三月地視定事修訂)
第一條 土地丈量ノ事
第一節 山林原野ハ耕地ト同視スヘカラスト雖モ大略耕地丈量ノ手續
ニ據ルヘキモノトス
第二節 山岳ハ斜面ニテ縦横ノ間數ヲ量リ反別ヲ算出スヘキモノトス
第三節 一筆限リノ區別アルモノハ其ノ筆限リ耕地同様ニ丈量シ一字
限リノ區別ノミナルモノハ其ノ字限リ廻リ分見或ハ板分見等ニテ適
宜丈量スヘキモノトス
第四節 深山幽谷或ハ柴草山等ノ如キ曠漠タル土地ニシテ容易ニ丈量

(三)

山林原野調査法細目(明治三十二年三月地視定事修訂)

第一條 土地丈量ノ事

第一節 山林原野ハ耕地ト同視スヘカラスト雖モ大略耕地丈量ノ手續
ニ據ルヘキモノトス

第二節 山岳ハ斜面ニテ縦横ノ間數ヲ量リ反別ヲ算出スヘキモノトス
第三節 一筆限リノ區別アルモノハ其ノ筆限リ耕地同様ニ丈量シ一字
限リノ區別ノミナルモノハ其ノ字限リ廻リ分見或ハ板分見等ニテ適
宜丈量スヘキモノトス

第四節 深山幽谷或ハ柴草山等ノ如キ曠漠タル土地ニシテ容易ニ丈量

第四節 須山嶺管領ハ蒙事山等ノ境ヲ隔絶スル土域ニシテ容易ニ丈量
宜丈量スヘキモノトス

第一節 須山嶺ノ境ハ其ノ半端リ段リ依原海ハ路依原等ニテ段
第二節 一筆廻リノ距離テハ其ノ半端リ段リ依原等ニテ段
第三節 山岳ハ其ノ半端リ段リ依原等ニテ段

第一節 山林等ノ境ハ其ノ半端リ段リ依原等ニテ段
第二節 土域丈量ノ事

(三)

山嶺管領調査記録目(昭和八年三月廿九日)

第一節 山林等ノ境ハ其ノ半端リ段リ依原等ニテ段
第二節 土域丈量ノ事

ナキ難キ地ハ差向キ四至ノ境界ヲ詳記シ周圍ノ里程ヲ量リ凡ソノ反
別ヲ取調フヘキモノトス

大寺續中歌ハ悉向乎國産ハ發果ヲ我國ヨリ出關ク庶幾ク量リ具クノヲ

二 明治十八年地押調査ノ際丈量方法

檢地ノ尺度反別ノ積數ハ地租改正ニ依リ既ニ確定スト雖モ測量法ノ如キ區々ニシテ一ナラス十字法アリ三斜法アリ毎地微細ニ之ヲ再檢セハ皆多少ノ増減ヲ免レス然レトモ第十號訓令誤謬土地整理ノ趣旨タルヤ瑣少ノ廣狹ヲ申告セシメ之ヲ訂正増減スルノ意ニアラサレハ改租當時丈量ノ粗略ナリシヨリ其ノ廣狹縮伸甚シク實ニ人民賣買讓與ノ間錯誤ヲ來シ紛爭ヲ生シ各自所有權ノ鞏固保持スル能ハサル如キモノニ限り毎地總テ三斜法ニ依リ更ニ其ノ反別ヲ總丈量セリ

三 地租條例布告當時ノ丈量方法

(一) 地租條例 (明治十七年布告第七號)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト

三
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

(二)

地租條例取扱心得書

爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ反ト爲シ拾反ヲ町ト爲シ宅地(但)(市街宅地)ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分ノ一ヲ勾ト爲ス

第三條 凡土地ノ丈量ハ三斜法ヲ用ヒ其ノ地主ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ反別及野取圖ヲ差出サシメ然ル上主務官吏ヲ派遣シテ其ノ當否ヲ検査セシムヘシ

第四條 凡間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分ノ一ヲ分ト爲シ分ノ十分ノ一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ連セサルモノハ此ヲ切捨テ五厘ニ止ムヘシ(即チ四寸又ハ五寸ヲ得ルトキハ一寸又ハ二寸ヲ切捨テ三寸此ノ六除五厘ト爲

（二）
凡土地ノ測量ハ一歩ニテハ二寸ヲ切捨テ五尺七寸此六除九分五厘ト
爲ス其ノ積算上ニ於テハ一步未滿ヲ切捨ツヘシ但シ一筆ノ土地
ニシテ一步未滿ナルモノハ合勾迄ヲ用フヘシ
市街宅地ハ丈量上ニ於テ厘未滿ヲ切捨勾位ニ止メ（厘ハ六尺ノ百
分ノ一即チ曲尺六分ヲ云フ）其ノ積算上ニ於テハ一勾未滿ヲ切捨
テ勾位ニ止ムヘシ（一勾ハ即一坪ノ百分ノ一ヲ云フ）
第五條 田畑ノ丈量ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ打詰ニ爲スヘシ
第六條 田畑ノ畦畔其ノ地主自由ニ變更スヘキモノハ之ヲ本地ニ量
入シ其ノ常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却ス（除去セシ畦畔ノ步數
ハ之ヲ本地ノ外書トシテ反別帳ニ記載スヘシ）
畑宅地ノ一筆ノミニ用フル通路及一筆内ニシテ其ノ所有主便宜ニ

(三) 明治三十四年四月、大蔵省は、地盤ノ丈量ハ總テ水平ニ測定スヘキモノトス

(二) 明治三十二年、大蔵省は、地盤ノ丈量ハ、前項以外ノ方法ニ依リ地盤ヲ丈量セントスルトキハ、大蔵大臣ノ承認ヲ受クヘシ

(一) 明治三十二年、大蔵省は、地盤ノ丈量ハ、前項以外ノ方法ニ依リ地盤ヲ丈量セントスルトキハ、大蔵大臣ノ承認ヲ受クヘシ

土地ノ丈量ハ總テ水平ニ測定スヘキモノトス

(四) 明治四十三年地租條例施行上取扱方内訓

第八條 地盤ノ丈量ハ測板式ニ依ルモノトス但シ當分從來ノ方法ニ

依ルヲ妨ケス

前項以外ノ方法ニ依リ地盤ヲ丈量セントスルトキハ大蔵大臣ノ承認

ヲ受クヘシ

(五) 大正七年大蔵大臣指令

一筆ノ土地ノ面積廣大ナル第二類地ニ限り羅盤儀ヲ使用スルヲ妨ケス

明治三十三年四月主税局回答

(六) 一步未滿ノ土地ハ勾位迄之ヲ存シ一筆トシテ取扱フモノトス

明治四十四年主税局長通牒

大藏省

照準器及

伝ナリ

明治二十年四月、地租改正ノ際、地租ノ公平ニシテ、農民ノ負擔ノ輕重、土地ノ廣狹、形狀實地ニ適合セサルノミナラス、脱漏アリ重複アリ甚シキハ東西位置ヲ顛倒スルモノアリ加之改租後土地ノ異動訂正修補セサルヲ以テ一モ實地ノ微證ニ足ルモノナシ是ニ於テ明治

地圖ノ沿革

改租繪圖

地租改正ノ際、調製シタルモノニシテ番號地順ニ隨ヒ一筆毎ノ形狀ヲ見取圖ニ製シ之ヲ聯合シテ一字限り及一村限圖ヲ製セリ一村限り圖トハ一村內ノ重ナル道路溝渠堤塘ヲ畫キ字ノ境界線ヲ引キ以テ一村ノ大體ヲ明ニシ一字限繪圖ハ一字ヲ一圖トナシ道路溝渠ハ勿論字內每筆ノ境界ヲ畫シ之ニ地番地目田數等ヲ記入シタルモノナリ（明治財政史）

地押圖

地租改正ノ際ノ地圖ハ一地ノ廣狹、形狀實地ニ適合セサルノミナラス脱漏アリ重複アリ甚シキハ東西位置ヲ顛倒スルモノアリ加之改租後土地ノ異動訂正修補セサルヲ以テ一モ實地ノ微證ニ足ルモノナシ是ニ於テ明治

明治二十年六月地圖更正準則ヲ訓示シ地圖ノ修補調製セシメタリ
明治二十年六月地圖更正準則別紙ノ通り

大 蔵 省

訓示

茲ニ奉命日本國政府ニ照會セラルルモノアリ（附註書見史）

一

大 蔵 省

二十年六月地圖更正準則ヲ訓示シ地圖ノ修補調製セシメタリ
明治二十年六月地圖更正準則別紙ノ通り

（明治財政史）

明治二十年六月二日
大藏大臣内訓第三八九〇號
(前掲書並)

訓令

○町村地圖調製方ノ件
明治二〇年六月二二日
大藏大臣内訓第三八九〇號

地租改正ノ際調製セシ町村地圖ハ各地方ノ便宜ニ任セ技術不慣熟ナル人民ノ手ニ成リシモノナルカ故ニ概ネ一筆ノ廣狹形狀等實地ニ適合セス或ハ脱漏重複又ハ位置ヲ轉倒スル等不完備ヲ免レサルモノ多キニ居ル加之地租改正以後十餘年間頻繁地目ノ異動アルモ地圖ハ改正ヲ加ヘサルカ爲メ目今ニ至リテハ頗ル錯雜ヲ極メ實地ト齟齬スルモノ夥多ニシテ到底地圖ノ用ヲナス能ハサルヨリ往々地圖更正ニ著手ノ地方アリ一體地圖ハ各町村ノ實況ヲ詳カナラシムルモノニテ地租ノ調査上ハ勿論土地百般ノ徵證ニ缺クヘカラスサルモノトス依テハ今後地圖ヲ更正スルモノハ別冊準例ニ憑據スルモノトス

(附錄)

夫夏五ニ養年スルハ要ス次集来ハ眞國眞傳學所ハ官職ニ屬體サセハテハ
財目下駄圖夏五ニ養年サセハ集式イ顯子陸泓夏五ニ養年サセハ訓林ハ斷

第三項 市街地ハ全市街ヲ數區ニ區劃スルカ若クハ一町毎ニ（ハ）號難形ニ倣ヒ其地圖ヲ調製スルモノトス

第四項 地圖ハ（イロハ）號雜形ニ依リ其符號及書式ニ從ヒ調製スルモノトス

第五項 町村地圖ハ五間ヲ以テ曲尺一分即チ三千分ノ一トシ字圖ハ一間ヲ以テ曲尺一分即チ六百トス

第六項 地圖ノ用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ裏打ヲ爲スモノトス

第七項 字圖ハ美濃紙ヲ用フト雖トモ大ナルモノハ二枚以上ヲ繼合セ又小ナルモノハ一枚中ニ二字以上ヲ畫クモ妨ナシ

但シ僅ニ紙幅ニ餘レルモノハ紙片ヲ張足シ折返置クモノトス

第八項 町村圖ハ一部字圖ハ正副各一部ヲ府縣廳及戸長役場ニ備置クモノ

第九項 地圖調製後土地ノ異動ニ係ルモノハ府縣廳及戶長役場ニ於テ其願
屆書ニ就キ第八項ノ副圖ニ其時々貼紙ヲ以テ修正スルモノトス
但畦畔ヲ設クルモノノ如キハ副圖ニ其ノ點線ヲ畫シ廢スルモノハ其虛線
ヲ畫スヘシ

第十項 地圖調製後道路河川ノ位置變更スルカ又ハ鐵道ノ敷設等其他ノ事
故ニ由リ町村ノ大體ニ變易ヲ來シ其儘差置キ難キモノハ再製スルモノト
ス

第十一項 地圖八年々異動地ヲ修正セシ副圖ニ就キ正圖副圖共十ヶ年毎ニ更ニ調製シ年月ヲ記載シ圖者之ニ記名捺印スルモノトス

但本圖明瞭ニシテ其儘使用シ得ラルヘキモノハ新調スルノ限ニ在ラス

唐本圖經卷ニシテ其書野田ノ界ヲハヘテハ海國ニ入リ國ニ濟ス
買ニ國邊ノ平民ヲ捕縛シ國邊ニ出テ殺害スルハテハイ
第十一條 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
ス
第一圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第二圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第三圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第四圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第五圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第六圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第七圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第八圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第九圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ
第十圖 試圖ハ半ノ長條狀ニテ五ノ國圖ニ分テ五國圖共十ノ半葉ニ

第十二項 棚田ノ如キ一筆内細小ノ區劃アリテ一々畦畔ヲ記入シ難キモノ
ハ枚數ヲ掲記シ別紙ニ記載添附スルモ妨ケナシ

ハ其邊に餘地ニ附屬スル地租整理上ノ根據タルハ言フ俟
第十二條 附屬ノ地租一率內附小ノ附屬地租一率ヲ以テ之ヲ
ハ其邊に餘地ニ附屬スル地租整理上ノ根據タルハ言フ俟

○改租町村地圖訂正手續ノ件
明治二一年四月一七日
主税局長通牒

地圖ヲ精敷ニシテ地形ヲ詳明ナラシムルハ地租整理上ノ根據タルハ言フ俟
タス故ニ完全ナル町村圖ノ調製ヲ要スルニヨリ客年六月第三八九〇號ヲ以
テ町村地圖調製式等內訓相成候ニ付將來該準則ニ依リ調製スル地圖ノ成功
ヲ以テ始メテ其目的ヲ達スルモノト被存候得共右ハ頗ル手數ヲ要スル事業
ニシテ一朝整理シ難キ事情モ有之ヘク就テハ該準則ニヨリ直ニ調製シ難キ
モノハ地押調査完了マテ界トシ義キニ改租ノ際調製セシ圖面ニ訂正ヲ加ヘ
實地照査ノ使用ニ供シ度存候間事務ノ緩急御差線別紙訂正手續御參照原圖
ノ成立ニ依リ適宜酌量御施行相成度尤モ爾後ノ分ハ右御訂正済ノ上更ニ御
著手ノ順序ニ致度省議ニヨリ此段及照會候也
追テ本文訂正ノ爲メ要スル費用ノ儀ハ配賦豫算額内ヲ以テ支辨可相成筋

（一）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（二）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（三）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（四）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（五）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（六）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（七）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（八）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（九）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス
（十）凡そ、前記ノ各款ニ依リ、地目ノ變更ハ、舊地目ヲ朱消シ、新地目ヲ記入スルモノトス

第四項 地目變換ハ舊地目ヲ朱消シ新地目ヲ記入スルモノトス

第五項 開墾地ハ其全筆ト幾部分トニ拘ハラズ貼紙ヲ爲シ 原圖ニ著色アルモノハ著色ヲモ訂正 番號新地目ヲ記入スルモノトス

第六項 荒地成ハ原地目ノ下ヘ荒地ノ文字ヲ記入シ（一筆ノ内幾部分ノ荒地成ハ其境界ヘ朱線ヲ畫シ荒地ノ文字ヲ記入シ）直キ免租年期明ニ至リ原地ニ復スルトキハ荒地ノ文字ヲ朱消シ他ノ地目ニ變スルトキハ貼紙ヲ爲シ 原圖ニ著色アルモノハ番號地目ヲ記入スルモノトス

第七項 畦畔ノ廢除ハ其畦畔線ヲ朱消シ新設ハ壘ノ點線ヲ畫スルモノトス
第八項 重複地ハ其一方ヲ削除シ脫落地ハ近傍ノ境界線ヲ削除シ原地形ハ挿入番號地目ヲ記入スルモノトス

第九項 有租地成、免租地成ノ内堤塘、道路、溝渠、鐵道等ノ敷地トナリ

タルモノハ朱又ハ蠟ニテ線路ヲ畫シ又同種類ノ有租地ト成リタルモノハ朱又ハ蠟ニテ一筆ノ境界線ヲ畫シ番號、地目ヲ記入スルモノトス

第十項 分筆ハ境界線ヲ畫シ番號、地目ヲ記入シ合筆ハ其境界線ヲ朱消シ合筆ノ文字ヲ記入スルモノトス

地籍編製雛形及心得書

大藏省

此冊係東京府縣各官署

參照

○乙第十六號

府縣東京府 函館縣 札幌縣 根室縣 沖繩縣 除

明治七年十一月當省乙第八十四號達地籍雛形別紙之通更正候
條右ニ準據編製可致此旨相達候事

(別紙)

(△印ハ朱書)

(紙 表)

何府縣地

籍

- △國郡區地籍倣之但町村地籍ノ編体ハ各府縣ノ便宜タルヘシ
- △府縣地籍ニハ國郡區町村ノ數國地籍ニハ郡區町村ノ數郡區地籍ニハ町村ノ數ヲ其表紙ノ裏面ニ記載スヘシ
- △地籍編製ノ年月日モ亦之ヲ表紙ノ裏面ニ記載スヘシ
- △表中朱橫線ノ上ヲ以テ筆數ハ千位段別ハ町位トスヘシ
- △用紙ハ美濃紙トス若シ他紙ヲ用ヅルハ美濃紙ノ寸法ヲ準トス
- ヘシ但ソ袋綴ニシテ綴目ニ主位捺印スヘシ

[illegible]

三

[illegible]

[illegible][illegible]

民有地第二種																
神社地										小計		物物水附温				
府縣郷村										計		揚置車寄泉				
社社社社										計		場場場場地				
渠塘路																
取置捨																
溝堤道土砂石																
揭																
												</				

達類ニ照準スヘシ

第二條 地圖地籍ハ相待テ用テ為スモノユヘ地圖詳覈ナラザレ

ハ實地明瞭ナラス其之ヲ製スルニ當リ甲乙兩管ノ接壤

不分明ナルトキハ雙方ノ經界聯續ヲ誤ラサル様申乙地

方官厚ク協議ヲ經テ圖籍ヲ製スヘシ

第三條 地籍編成着手ノ順序ヲ小別スヘハ左ノ如シ

一 經界ヲ釐定スルコト

二 地種名稱ヲ調理スルコト

三 實地ヲ丈量シ方積ヲ求ムル事

四 地圖ヲ編製スルコト

五 地籍ヲ整頓スルコト

第四條 地籍編製ノ為ニ土地ヲ調整スルハ官民地ヲ問ハス一

概ニ其本地ニ於テ調査スルモノトス

第五條 島嶼ノ隔絶シテ其地勢ヲ確知セラレサルモノハ方

位距離廣狹等調査大畧ノ目的ヲ立伺出ヘシ

第六條 地籍編製ノ際地名所有等未定ノ廉アリ現今伺

中ニテ指令未済ノ分ハ其原稱ニ據テ記載スヘシ

第二章 經界釐定

第七條 土地ノ經界不分明ナルモノハ其證跡ヲ正シ從來ノ慣

習實地ノ景況及左ノ三項ニ隨ヒ之ヲ定ムルモノトス

一 國郡村ノ經界ニ関スルモノハ伺出ヘシ

二 海ト陸地ノ經界ハ満潮ヲ以テ其已別ヲナスヘシ

三 水流ヲ界トスルモノハ其中心ヲ以テ山頂ヲ界トスルモノ

ハ雨水分派スル所ヲ以テ道路ヲ界トスルモノハ其中央ヲ

以テスヘシ

第八條 字ハ舊慣ニ依ルヲ旨トス然レ其實際廣大ニシテ已

ムヲ得ス分裂セサルヲ得サルモノハ成ルヘク字ニ上下或ハ一

二三ノ文字ヲ加ヘ舊字ヲ存シ分裂ヲ為シ之ニ反シ狹少ニ

シテ合併セサルヲ得サルモノハ舊字ノ廣ク唱フル一字ヲ採

リ合併ヲ為スモ妨ケナントス

第三章 土地ノ名請

第九條 官用地ハ總テ其直轄スル官省等ノ名ヲ以テシ官有地ノ道路堤塘溝渠ノ類ハ地目ノミヲ記シ民有地ハ其所有者ノ名ヲ以テスヘシ

第四章 荒地新開並官民貸借地

第十條 荒地及新開場總テ缺下年期其他官民貸借ノ契約アルモノ其箇目及年期ヲ明記スヘシ

第五章 製圖順序

第十一條 地圖ヲ製スルノ順序ハ先ツ字限リ圖ヲ製シ字限圖ニ因テ町圖ヲ製シ町村圖ニ因テ郡圖ヲ製シ郡圖ニ因テ國圖ヲ製シ國圖ニ因テ使府藩縣圖ヲ製スルモノトス

第十二條 高山廣野ニシテ字限圖ヲ製シ難キモノハ之ヲ省キ町村圖ニ讓リ一筆毎ヲ記載スルモ妨ケナントス

第六章 製籍順序及檢認

第十三條 地籍ヲ製スル順序ハ村町地籍ヲ製シ村町地籍ヲ以テ郡地籍^藩ヲ製シ郡地籍ヲ以テ國地籍ヲ製シ國地籍ヲ以テ使府縣地籍ヲ製スルモノトス

第十四條 村町地籍地圖各ニ通り村町ニ於テ編製シ地方廳ハ差出サセ其廳ニ於テ之ヲ調査シ誤謬ナキモノハ之ニ割印(地方廳中)シ一通ハ其廳ニ備ヘ置キ一通ハ其村町ヘ下矣スヘシ

第十五條 地籍地圖ヲ編製スルノ順序ハ前條ノ如クナリト雖今新ニ製スルハ地租改正ノ為メ調査セン方積ヲ憑據トシ未タ調査ヲ経サルモノハ其方法ニ照シ拾收登記スヘシ